

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>No increased risk of breast cancer associated with alcohol consumption among carriers of BRCA1 and BRCA2 mutations ages <50 years.</p> <p>50歳未満のBRCA1及びBRCA2変異のキャリアにおいてはアルコール消費と乳がん発症の危険度に有意差は認めなかった。</p>	
執筆者	
<p>McGuire V, John EM, Felberg A, Haile RW, Boyd NF, Thomas DC, Jenkins MA, Milne RL, Daly MB, Ward J, Terry MB, Andrulis IL, Knight JA, Godwin AK, Giles GG, Southey M, West DW, Hopper JL, Whittemore AS; kConFab Investigators.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2006 Aug;15(8):1565-7.</p>	
キーワード	
<p>BRCA1、BRCA2、乳がん、アルコール</p>	
要旨	
<p>背景と目的：</p> <p>アルコール摂取と乳がん発症の間に関連があることはすでに報告されているがアルコール摂取と発がんに関する関係の報告もありアルコール摂取による発がんの危険を緩和する因子の存在が考慮される。たとえばBRCA1、BRCA2遺伝子変異が緩和に関わっているかもしれないがこの検討はまだなされていない。そこで50歳未満のBRCA1、BRCA2変異のキャリアの女性についてアルコール摂取と乳がん発症の危険の関係を検討した。</p>	
<p>方法：</p> <p>アメリカ、カナダ、オーストラリアの共同研究参加者の中から195人のBRCA1変異を持つ集団と302人の対照集団、128人のBRCA2変異を持つ集団と179人の対照集団の間でアルコール消費と乳がん発症の危険を比較した。</p>	
<p>結果：</p> <p>BRCA1変異のキャリアかどうかに関わらず、非飲酒に比べて飲酒は乳がんの発症リスクの増加とは関連がなかった(オッズ比、1.06; 95%信頼区間、0.73-1.52)。同様にBRCA2変異のキャリアかどうかに関わらず、非飲酒に比べて飲酒は乳がんの発症リスク増加とは関連がなかった(オッズ比、0.66; 95%信頼区間、0.45-0.97)。また、各キャリアにおける乳がん発症とアルコール消費の量、期間とは有意な関係が認められなかったがBRCA2変異を有するもののうちで少量飲酒(一日4g未満)は乳がんのリスクを減少させた(オッズ比、0.41; 95%信頼区間、0.22-0.77)。</p>	
<p>結論：</p> <p>アルコール摂取によってBRCA1、BRCA2変異のキャリアの女性の乳がん発症の危険が増加するとはいえなかった。しかしBRCA2変異を有するものでは少量飲酒(一日4g未満)は乳がんのリスクを減少させる可能性が示唆された。</p>	